

## 京都府立総合資料館所蔵『菊号調書』の翻刻と解説(4)

村山 弘太郎  
村山 弥生

「京都府立総合資料館所蔵『菊号調書』の翻刻と解説」は、全四回に分けて掲載した。紀要第十七号（二五七～三六〇ページ）に第一回（1～62）を、紀要第十八号（二七五～二六二ページ）に第二回（63～114）を、紀要第十九号（二二二～一九五ページ）に第三回（115～186）を掲載したので参照されたい。本号には、最終回（187～256）を掲載する。

### 187 「向日大明神」

御届奉申上候覚

一 九月四日御政府へ御達しニ、菊御紋相用居候分者、委細書付ヲ届可出様之御沙汰有之候ニ付、向日大明神ニ置而者、右御紋之処、去ル天保十一年戊年、甘露寺様御寄附被下成候朱之挑灯、神前ニ有之候、然ル処御一新之折柄、神事之翌々日、乍恐禁中江大麻献上仕、則唐櫃ニ菊御紋付居り候外者、一切無御座候、此段御届奉申上候、以上、

巳九月

向日大明神

神主 六人部縫殿(印)

同 秀治(印)

京都 御役所

188 「玉津嶋社」

今般菊御紋御停止被仰出候旨、御布告被為在奉畏候、当社之儀者、從往古御所く格別之御由緒被為在、御再興之度毎、菊御紋御附被為遊、於今二從御内儀御紋附之御灯燈御奉納被為在、御神前二掛来候儀二御座候、如何仕候哉、御沙汰奉伺候、以上、

松原通烏丸西入ル

玉津嶋社

明治二年十月

千訓神主

源照彦(印)

京都府 御役所

189 「天寧寺」

御届奉申上候覚

一当寺儀者、宝曆年中有栖川宮御祈願所被仰付、依之為殿内御安全、御紋附紫幕三張御寄附被為在、法用之節、

寺内限相用來候事、

一明和年中同御殿■院一品宮御尊牌被為納候二付、御紋附高張提灯并箱弓張等御紋附一虫損一張御寄附被為在候、尤非常之節、御尊牌為守護相用來候事、右御紋附之品、常二猥二相用候儀者堅不仕候、此段御届奉申上候、以上、

寺町頭

明治二年巳九月

天寧寺

役者 良仙(印)

京都 御政府

190 「祇園御旅所 悪王子社」

御届ケ申上候口上書

一四条通祇園御旅所悪王子儀、從聖護院御門主御紋附并御幕御寄附被成下候二付、年中神事度毎二掛置申度、此段御届ケ申上候、以上、

明治二巳年

九月

西村主計(印)

京都 御政府

口上書

一 菊御紋附釣挑灯 六張

右者、悪王子社神前ニ古来今灯来候ニ付、安永九年御触有之、右ニ而御役所江御届申上候、以上、

明治二巳年

九月

西村主計（印）

京都 御政府

191「照臨院」

一 当院儀、有栖川宮御位牌所ニ御座候ニ付、同御殿之菊御紋附提灯、数六ツ、内高張式ツ、手提灯四ツ、文政十二丑年二月御寄附被成下候、依之相用候、此段御届奉申上候、以上、

山城国愛宕郡

聖護院村内

明治二巳年九月

照臨院（印）

192「龍源寺」

菊御紋相用候儀者可為停止旨、宮門跡方由緒等有之、自然相用候ハ、今十五日迄其次第相記、改而可伺出御布令之段、本山表へ申達候、右取調仕候間、今暫御猶予之儀奉願候、以上、

九月

川原町二条上ル

専修寺寺里坊

輪番 龍源寺(印)

御政府

193 「愛宕社」

奉伺口上書

一 祭典二付、従内侍所御寄附之品、

一 御紋附白御幕 式張

一 御紋附高張挑灯 式張

右者、従往古于今御寄附、祭典之節相用求候間、向後右等之節相用度、此段奉伺候、以上、

巳九月十七日

愛宕社社務

日下部平麿(印)

京都 御政府

194 「三福寺」

伺書

一 当寺儀者、後一條院天皇御后上東門院殿、当寺夢見地藏尊深信仰被為在候折柄、有夜尊像ニ靈夢蒙玉ひ、

無程皇太子安々御降誕被為遊、是則後一条院天皇ニ而在す也、右御由緒、御一条院天皇、後一条院天皇、上東門院殿、右御尊牌御安置有之候、依之御服壹、打敷式、紫幕壹、高張燈灯式、手丸燈灯式、右之品々何れ茂御紋附ニ而為御守護用來候間、此段奉伺候、以上、

明治二巳年

二条川東

九月

三福寺(印)

御政府

195「勝園寺」

乍恐奉伺口上書

一拙寺儀、人皇百六代、後奈良院帝宸翰、勝園寺之勅額被為下置、依之往古今菊御紋相用來候、尤古記録等者天明年中之火災之節焼失仕候ニ付、巨細之儀者難相分り、已来之处本尊前水引、打敷、仏具之類并ニ、勅額之前ニ高張式ツ、相用申度候間、此段御許容被為成下候様、宜敷御執成之程偏ニ奉願上候、以上、

寺町通綾小路下ル处

明治二年

勝園寺(印)

巳九月

## 196 「太子堂 百毫寺」

奉伺口上書

一今般御改正ニ付菊御紋附用候儀御差止相成、尤格別由緒有之者可伺出旨被仰出候処、当山義者聖德太子之御建立ニ而、昔々本願皇子と唱、御自作之御肖像今以安置仕候ニ付、御忌法要等ニハ先々菊御紋附用来り、且又嵯峨御殿（ツ）ハ茂従前御立入之御目錄有之、文政五丑年二月、菊御紋付紫幕并釣灯燈等御寄附被成下、今以看護罷在候、尤御忌日法要之外ハ決相用不申、是等之義、如何可仕候哉、乍恐御伺奉申上候、以上、

下寺町五条下ル町

太子堂

百毫寺

明治貳年巳九月

速成就院（印）

## 197 「見性寺」

菊桐御紋由緒之事

一開基主膳正信正入道了盛、桓武天皇三十二代後胤、織田贈太政大臣平信長公ノ長男、信忠卿之庶兄也、正親町院上皇有寵蒙天恩、天正三年六月、拝戴菊桐御紋及珍器特屢伺候、春宮誠仁親王賜御硯御製、同五年、叙任四位侍従、其後天正十六年五月、織田公七廻諱辰之節、従豊臣殿下秀吉公、御紋附紫幕、其外種々之品御寄附ニ相成候、依之代々寺紋ニ相用來候、此段御届奉申上候、以上、

明治二巳年

二条川東

七月

見性寺(印)

京都 御政府

198 「巨掠社」

乍恐御伺奉申上候

城州久世郡小倉村氏神

式内 巨掠社

祭神 武甕槌神 経津主神

天兒屋神 姫大神

右方今巨掠社与号し、人皇五十式代、嵯峨天皇依勅、春日ヲ巨掠社ト再御勧請之由、右旧社地、往年流亡致し、只今字春日森と相唱へ沼地ニ御座候、

一今般被仰出候、菊御紋相用候儀御停止之義御座候、当社義、右之通勧請ニ御座候間、古来今神事之節、挑灯ニ菊御紋相用申候、右ニ付旧書等も無御座候得共、古来今仕来申候間、此段御伺奉申上候、

神主 宮本若狭(印)

明治貳年巳八月



199 「椿井村 御霊社」

乍恐以口上書御伺奉申上候

南山城相楽郡椿井村

御霊社 菊御紋之挑灯

右者、社頭神事而已ニ往古より用来り候処、此度菊御紋之儀ハ猥リニ相用候儀難相成候様御布令ニ付、如何可仕候哉、此段御伺奉申上候、以上、

神主 西井刑部(印)

明治二巳年

八月

京都 御政府

200 「白河寺」

口上書

一釣挑灯四張

一箱提灯弐張

一弓張挑灯二張

一会符 弐本

但し下ニ白河寺ト書付有之、

右、当寺ニ後白河法皇様御陵、御尊牌奉安置候格別之御由緒有、是法用、寺用共、往古より相用來候、則寺

号白河寺与申義二御座候、右挑灯、会符相用候訳、此度御触書之趣、御届ケ申上候、以上、

城州宇治郡山科郷東野村

京妙心寺末

白河寺(印)

泓洲(印)

明治二巳年八月

京都府 御役人衆中

201「西蓮寺」

就御尋奉申上口上覚

葛野郡西七条村

時宗市屋流京五条下寺町金光寺末

西市屋道場

西蓮寺

一拙寺義者、天慶二年、延喜帝皇子空也上人開基二付、従古来御紋附之挑灯四張、境内限相用申来候、乍恐

此段御届奉申上候、以上、

明治二巳年

右

八月十四日

西蓮寺(印)

京都 御政府

202 「妙頭寺」

菊御紋由緒書

一当寺儀古来菊御紋相用来り候儀者、元享元年、当寺建立之節、從後醍醐天皇寺地拝領仕、堂宇之儀者從天皇都鄙江勸請被仰附建立ニ相成候、其後代々之貫主江勸願之御祈禱被仰附、後光厳院帝可為四海唱導蒙勸許、代々貫主并當時之貫主ニ至迄、勸願所四海唱導之御繪旨頂戴仕、代々着紫衣蒙勸許候、右ニ付、去慶応二寅年、從御所当寺境内江慶中稻荷大明神之社御建立被為遊候次第第二御座候、右古来之由緒ニ依菊御紋幕、提灯、其外道具類々相用候故、此段奉申上候、以上、  
 明治二巳年九月十五日

妙頭寺役者

久本院（印）

京都 御政府

203 「愛宕護社」

奉伺口上書

一御紋附御挑灯 壹張

右者、毎年七月御使ヲ以御寄附、尾崎久麿執次仕、神前江相灯候、御挑灯、毎年神事等之節相用來候間、向後右等之節相用度奉存候、仍而此段奉伺候、以上、

愛宕護社務惣代

巳九月十七日

日下部平磨（印）

京都 御政府

204 「菱妻社」

奉伺口上書

当菱妻社小神轡一舎菊御紋付、古来仙洞御所御寄附二付、左右二挑灯共、例年四月神事之節、一度ツ、相用ひ來候間、今般菊御紋御調之儀二付奉御伺上候、尤神事忝度限り二候間、御憐愍を以是迄之通二御免被成下様奉御願申上候、以上、

明治二巳年

八月

乙訓郡築山村

菱妻社神主

片岡從五位（印）

京都府 御役所

205 「真宗院」

乍恐御届奉申上候口上書

一 菊之御紋付者、

後嵯峨院 御尊牌安置

後深草院 御尊牌安置

桜町院 御尊牌安置

後深草院御宸翰額 壹面

御紋付紫幕 貳張

御紋付挑灯 貳張

右者、勅願寺ニ而往古開山圓空上人已来今當時ニ至迄持伝候、其後有栖川御宮由緒之儀者、

文聚院宮様御尊牌 安置

御紋付紫幕貳張、御紋付挑灯貳張、

灰筋御築地、右者、御尊牌安置被為在候ニ付、文政八酉年右御寄附被成下候、此段御届申上候、以上、

明治二巳年

山城国紀伊郡深草露谷

九月

真宗院役者

順孝(印)

御政府 御役所

206 「法伝寺」

奉伺口上書

一菊御紋相用候由緒之儀者、人王四十五代、聖武天皇勅願所二而、本尊薬師仏者開山行基菩薩之作、四天王十二神ハ弘法大師作二而、靈験殊ニ不少、依之鎮護国家之可為御祈祷所旨奉蒙勅命候、且又人王八十九代、華山院様御宇、御信仰被為在候而、御紋附仏具類、其外幕、挑灯、御寄附被為在拜領仕候次第、別記目錄之通奉入御覽候、以上、

城州紀伊郡下鳥羽村

明治二年巳八月

法傳寺

法譽(印)

京都府 御役所

207 「法巖寺」

乍恐奉願口上書

城州宇治郡山科郷

音羽村小山村立会所

牛尾山 法巖寺

一 今般菊御紋附御停止被仰出候儀奉畏候、然ル処、於拙寺菊御紋所用之儀者、人皇三十九代御姓勅作之本尊  
 十一面觀世音ニ而、滋賀都ニ有之候を致安置来候、由緒者人皇四十九代御姓依勅願、滋賀都今当山江可移  
 様との蒙宣旨候事ニ御座候、乍恐其以来御紋附御許容ニ而相用ひ来候、依之別紙言上書御披覽之程奉願上  
 候間、何卒前条御賢察之上、在来御由緒之通依用之儀御許容被成下候ハ、難有仕合ニ奉存候、此段偏ニ  
 奉願上候、以上、

牛尾山

明治二巳年八月

法嚴寺

音羽村郷士

栗津伊右衛門(印)

小山村郷士

中川太右衛門(印)

京都府 郡政 御役所

別紙奉言上候

一本尊厨子并戸張

弍懸

一壇上打敷并水引

三枚

一幕

五張

一高張挑灯

六ツ

一大挑灯

貳拾

一小ノ丸挑灯

八ツ

一沓箱

壹

右者御紋附之品ニ御座候間、從來之通御許容被成下候様、伏而奉願上候、以上、

城州宇治郡山科郷

音羽村小山村立会所

牛尾山

法巖寺

音羽村郷士

栗津伊右衛門（印）

小山村郷士

中川太右衛門（印）

京都府 郡政御役所

2008 「乙訓寺」

奉伺上口上書

菊御紋相用候儀者可為御停止旨、兼而御布令相成候処、当乙訓寺儀者、往古推古天皇肇ニ開此地、於山城国西長岡建立伽藍、聖德太子御入室之地、乙訓郡以施与給三宝供故、勅号乙訓寺与被成下候、其後中興寛平法



皇御入住之地故、御室旧地与申伝候、依之御室御所御免許ヲ以、本尊前者不及申、世用等迄相用來候間、右両法皇様御由緒ヲ以、是迄之通永世相用候様御許容被仰付置候得者、幕(ツマ)太難有仕合奉存候、

乙訓郡西岡今里村

乙訓寺(印)

明治二巳年九月

役者

大聖院(印)

209 「新吉光寺」

奉伺上口上書

菊御紋之義ニ付御布令之御趣意奉敬承候、依之奉伺上候条、左之通、

一当御影堂中興開基之祖師卜仰奉候者、後嵯峨院皇子竹御所ニ而御入道、御法号ハ王阿上人与奉申、御存生中御真像御安置被為在候ニ付、御像前道具向菊御紋付ニ有之、并御追福御法会等二者、堂前ニ御紋付高張提灯相用罷在候事、

一靈元院法皇御所御姫宮、臻岸院尊儀御尊牌御納有之、為尊儀御菩提菊御紋付紫御幕、御水曳、御戸張、御奉納被為在候事、

一当御影堂扇子之義ハ、主上御熟悩御平癒之効驗有之候ニ付、忝久寿扇之勅銘を賜、諸人ニ可施行旨奉蒙勅命候、已来売店普通之扇子ニ為不紛菊御紋御印相用罷在候事、

右之条々奉伺上候、以上、

御影堂

新吉光寺役者

明治二年

重阿弥（印）

九月

底阿弥（印）

京都 御政府

210 「光清寺」

由緒覚

一当寺開基者伏見宮様御母公二而、当寺開山果山長老与師弟之御契約被為有候御間柄二御座候二付、從御殿御位牌拝領被仰付候、御墓所之儀ハ、則当寺墓所二一緒二御座候、元禄十五年午二月令御殿之御領分二付、光清寺開基之菩提寺二御取立御再興被成下候、右二付御公儀向者從御殿若狭之守様諸事御高配二而相濟候、宝永三年戌十二月、右御母公様御法号、慈眼院殿心和光清大信女与申御法号、改心和山光清寺与号又山号寺号共二法号二御座候、弥依御魂命二御紋付之御寄附物、戸張、打敷、縫之御紋付白五郎丸幕三張、文庫、高張、外二無紋之御染筆御寄附等有之候、御紋之儀ハ菊之中二桔梗之紋処二御座候、右拝領之御紋代々相用來候、右由緒二付、寛文四年頃令御殿御代々之御葬式之節、御紋付高張挑灯相用御供御諷経等相勤來、諸事本寺格二御引立二相成候、其外申立候由緒無御座候、以上、

出水通千本南江入所

明治貳年

無本寺禪宗

巳九月

光清寺

役者(印)

御政府

211 「浄光寺」

御伺書

一拙寺義、伏見殿十四世貞致親王御幼雅從御時、当寺二而奉御養育被為在御得度候処、就中御殿御代繼不被為在候二付、当寺今直二被為遊御從位候、以後寛文四辰年閏五月、御母儀号慈眼院殿御薨去二付、御菩提所二相成候、延宝元丑年五月、宝永五子年三月、御殿御焼亡二付、臨時両度共御仮殿二相成候、右御懇切之謂、御祠堂銀、将又菊御紋被為御寄附之、至後々可用様与之御許状御下二相成申居候、右就御由緒御座候二、古来今伏見殿御里坊与称、且御裏菊之御紋相用來候、此段如何可仕候哉、謹而御伺奉申上候、以上、

金戒光明寺末

明治二巳年九月

上京壹番組寺之内千本東入

浄光寺(印)

御政府 御役人中

〔表紙〕

〔庚午閏十月改

菊号調書 〕

〔社寺

第四番終〕

212 〔愛宕護社〕

奉伺口上書

一御紋附御挑燈 壹張

右者毎年七月御使ヲ以御寄附、尾崎久磨執次仕神前江相挑候挑灯、毎年神事等之節相用來候間、向後右等之節相用度奉存候、仍而此段奉伺候、以上、

愛宕護社社務惣代

日下部平磨（印）

明治貳巳年九月十七日

京都 御政府

## 213 「三寶寺」

奉窺口上書

廣幡家

## 二重菊

一 御紋、右者由緒御座候ニ付先年寄附ニ相成候処、先般御止事被仰在候ニ付、此度相改メ花数十四裏桔梗付之紋向後相用申度候間、此段奉窺上候、以上、

明治二巳年 九月晦日

智恩寺末

三条大宮西入町

三寶寺(印)

京都 御政府

## 214 「奈良弥右衛門」

乍恐奉願上口上書

一 私先祖ニ而御座候者、奈良之都ニ住居罷在候節、恐多も人皇三拾代欽明天皇様之御宇、唐土分鍼療■来之砌、難有も勅命を蒙り先祖ニ而者江鍼工仕候様被仰付、依之初而金銀ニ而鍼を作り奉献上候処、早速御用ひ相成、鍼治即功且者細造成として御叡慮ニ叶ひ、向後ハ鍼造を世ニ広く弘候様被仰付、南都表ニ而代々弘め来り候中、桓武天皇様之御宇、御当地江都を御移し被遊候節、供奉仕候様被仰付、其節之御褒美として菊御紋附看板

頂戴仕、已來者奈良弥右衛門等可名乘候様被仰付、其節分御当所住居仕、尤古來分之由緒書付之類所持致候処、天明大火之節焼失仕、其後者写取書を頂戴仕居候看板所持罷有、当所住居之義も所々転宅仕候趣二而、住居之町ニも相分り堅御座候共、私親住居致候場所寺町通四条下貞安前之町ニ家屋敷所持仕居致候、右同町前々分之印鑑帳面二者、最初分奈良弥右衛門等名前御座候趣承り候、其後勝手ニ付家屋敷売払、去ル万延元年申四月分寺町通五条上町江転宅仕住居候所、去ル子七月火災之節由緒書物之写等焼失仕、褒美之看板御大切ニ守護仕持逃、難有當時も所持罷在候、全前書之義者由緒書等焼失仕候義ニ御座候二而、承り伝へ候義を奉申上候義ニ御座候得共、看板之義ハ是迄之通其俣相用ひ申度奉存候、且別段屋号と申事も無御座候得者、前書之訳柄を以前々分之通奈良弥右衛門と相名乗相統仕候得者、先祖之ものも如

一 御挑灯杯頂戴仕候義ハ無御座候、

一 一苗字相名乗仕候共職業ニ付而之義ニ御座候得者、帶刀杯一切無御座候、

一 一看板之義者左ニ写し奉御高覽入候、

〔看板絵図〕

下京拾五番組

寺町通五条上ル町

奈良弥右衛門 (印)

年寄 六兵衛 (印)

五人頭 利助 (印)

明治貳年巳九月

京都 御政府

215 「嵯峨清凉寺」

「御紋附由緒書

山城国葛野郡上嵯峨村

清凉寺学侶

地藏院」

御伺奉申候

一 菊御紋附高張式ツ 但し毎年二月十五日积尊涅槃会陀鼻儀式相勤ノ節相用候、

一 同箱提灯二張 同断、

一 手提灯 二張 但し本堂江出仕之砌ニ相用候、

一 当寺积迦堂之義、往古今大覚寺御門跡伽藍御座候处、中古御寺務所相成、天下泰平長日之御祈念、且又毎年二月十五日、积尊涅槃会陀鼻儀式ニ而御代勤被為仰付相続仕候、依之菊御紋附従御門跡拝領仕候、法用之砌所用いたし、其餘決而世事等二者持用仕来不申候、依而此段奉申上候 以上

嵯峨清凉寺

学侶

地藏院(印)

京都 御政府

216 「布告」

從來宮・堂上より諸国寺院江祈願所ト唱へ、妄ニ菊御紋付之品々致寄附候儀、無謂次第ニ付堅ク禁止被仰出候、尤新ニ祈願所ニ致シ候儀も一切不相成候、此旨可相心得様御沙汰候事、

但、無抛旧来之由緒を以御紋附之品其佞致寄附、且新ニ祈願所ニ致置候分ハ、其筋へ伺出可受御指図候事、

二月

行政官

217 「弁事官宛書簡」

一於社寺由緒有之候分者、由緒之次第委細書附を以申上、検査之上御取捨有之候儀ニ存候、

無故妄ニ御紋附之品々相用候儀ハ、向後決然不相成候様致度存候事、

一御寄附現在之品者相用候而不苦、若御寄附之品腐朽候得者、夫限ニ而準之更作為候儀者堅ク御停止有之度存候事、

一宮・門跡方受賜之御紋を付候品、社寺江寄附被致間敷様致度事、

四月廿八日

是迄諸社ニ於テ菊御紋相用候儀、其社柄ニヨリ神宝へ附来候分ハ古来ノ通差置、其餘提灯等ニ附候儀ハ不相成旨申達置候処、別紙其外追々伺出候分モ有之、如何取斗ヒ候テ可然哉、以後之所一定致置度候間、早々御



評議之上否御示可給候也、

神祇官

弁事宛

218 「柳谷楊谷寺」

「明治貳巳年八月

御紋付届書

山城州乙訓郡柳谷

楊谷寺」

御紋付届書

乙訓郡柳谷

楊谷寺

一拙寺儀者、従後水尾天皇以来可為勅願所旨奉蒙仰候、元禄十五年、従靈元院様御紋付幕壹張御寄附被為在候、  
 享保十三申年、従中御門天皇御紋付金灯籠壹掛御寄附被為在候、享和二戌年、従光格天皇御紋付打敷貳枚、  
 同水引〔割書〕「俗ニ云天幕之類」一具御寄附被為在候、文化十一戌年、従春宮様〔割書〕「仁孝天皇」御  
 紋付幕并御幕修覆料銀拾枚被為下置候、後水尾天皇已来、御代々従皇帝紅白高張挑灯壹対、或者貳対、凡  
 両三年隔臨時ニ御寄附被為在候、  
 右之通御寄附之御品御座候間從來相用候、

右之外二又御紋付之箱提灯式張、馬提灯式張、右者御寄附之品二而ハ無御座候へ共、前々今御撫物御通行之節、且卷数献上之節、相用來候、右之通相違無御座候、以上、

明治貳巳年 八月

山城州乙訓郡柳谷

楊谷寺

住持俊洲（印）

京都府 郡御政府

219 「勝手大明神」

乍恐奉伺候口上書

一勝手大明神御神前ニ奉掛候菊御紋付提灯壹対、右ハ享保四巳亥二月十四日、寶鏡寺御所御一代 本覚院宮様、右社江御社參被為在候、其節右御紋附御寄附有之候、今般就御調御伺旁奉申上候、以上、  
明治二巳年八月十三日

城州久世郡平川村

百々御所収納取立役

芳右衛門（印）

年寄源三郎(印)

京都府 郡政 御役所

220 「道風神社」

「明治貳年

口上書

巳八年

城州葛野郡小野郷

杉坂村」

乍恐口上書

城州葛野郡小野郷杉坂村

一此度菊御紋附相用ひ候儀御調二付奉申上候、当村氏神正一位道風武大明神之社江、寛政十二年八月、  
法皇様々

葉附菊御紋附御幕 壹張

同 御紋附挑灯 壹張

右御寄附被在候、

文政六年未三月

仙洞御所様々

唐草菊御紋附御幕 壹張

同 御紋附挑灯 壹張

右之通御旧例ニ付永久御寄附被為在候間、神事之節神用ニ相用ヒ、其外一切相用ヒ不申候間、乍恐此段奉申上候、以上、

杉坂村

明治二年

年寄 忠郎右衛門 (印)

巳八月

庄屋 太兵衛 (印)

京都府 御役所

221 「萬福寺」

「上

城州久世郡久世村

萬福寺」

奉窺口上書

一今般菊之御紋相用候義御停止之御布告奉敬承候、則当寺義者、文政四巳年、從勸修寺御殿為道場、莊嚴菊之御紋御寄附被為成下候ニ付、非常并常用之灯燈等ニ御紋相用ヒ来候得共、以来者相用ヒ不申候ニ付、此段御届奉申上候、以上、

明治貳巳年

八月

城州久世郡

久世村

萬福寺(印)

京都 御政府

222 「元慶寺」

「 宇治郡北花山村天慶寺

元慶寺由緒書

┌

乍恐奉申上口上書

勅願所 天台宗 除地 東西貳拾間半南北三拾五間

妙法院宮御支配

城州宇治郡北花山村

無本寺

元慶寺

華頂山元慶寺者、清和天皇御宇貞觀十一巳丑年、依叡願勅僧正遍昭令創建給、同十九年、陽成天皇御即位改

元号元慶、此年十二月九日、配紀元賜元慶寺之定額、同三年八月、令鑄浩鐘納当寺給、銘者依勅菅丞相製之、同年十月廿三日、遍照任權僧正、同閏十月五日、以宇治郡官田四段三拾六步施入当寺、同八年九月十七日、准延曆寺之例、伝法灌頂之密場勅定、仁和元年、光孝天皇御即位、同二年九月四日、依勅以近江国高島郡田百五十拾町令施入当寺給、同年十月廿三日、遍照転任正僧正、同三年三月、勅賜封百戸、宮中之昇降被免輦車、寛和二年、華山院御十九歲当寺入御被為成御落飾、法号奉称入覚法皇、諸国御練行之後、又於当寺自開灌頂檀及結縁灌頂被為在御修行候、其後応仁之兵乱二堂塔伽藍致燒亡候、但シ本尊并開山僧正之像、華山法皇之尊牌者燒失不仕候、中古妙嚴律師安永八年、蒙御免許、本堂并寺院建立仕、妙法院座主宮被為在御執奏、寛政元酉年十二月廿五日、以萬里小路大納言殿、当寺勅願所之儀被仰達、往古之通被為復勅願所候、四御所御撫物、平日本尊前二奉安置候、但シ當時者禁裏御所斗二御座候、正・五・九之三月、朔日より八日迄御祈禱修行卷数献上仕候、依之年々御檀料被下置候、尚又当寺之梵鐘者管丞相之御製作之名器二御座候処、往古兵乱節致燒亡、寛政十一年八月九日、閑院宮御寄附被為成下、模往古管丞相之銘文候、筆者高辻中納言殿二御座候、寛政五年丑八月廿日、妙法院宮、菊御紋附幕式張、同箱挑灯巻張、弓張提灯巻張、御寄附御許容被仰付候、但シ御撫物等為警固、且非常之節又者臨時御用之節相用申候、以上、

右之通相違無御座候、以上、

城州宇治郡北花山村

明治二巳年八月

天台宗 無本寺

元慶寺(印)

京都府 御役所

## 223 「新熊野神社」

奉御届申上候口上覚

一後白河天皇御勸請之御社ニ御座候ニ付、従前菊御紋用來候、尚亦寛文中御再興之節御寄附、其後も社用  
 二者用來候得共、平常者納置、社用之外堅相用不申候、此間御届奉申上候、以上、

明治二巳年九月

新熊野社仕

鈴木主齡(印)

京都 御政府

## 224 「城南宮」

「伺書」

奉伺上口上書

一菊御紋当社ニ用來候義取調候得共、明和五子年四月下旬、火災之砌古記類大躰焼失仕、年月難分候得共、度々  
 御寄附ニ相成有之候由申伝來候、当社之義者延暦十三年、桓武天皇平安城御遷都之御時、国常立尊を御勸  
 請被為在、万代不易之御為御神号を日乃本不易皇太神宮と申し、益神威を敬ひ、桓武天皇第五之皇子賀陽  
 親王、右京ニ別殿を作り被為遊候、於名所絵図ニ候城南七社之神と申し上、七社察(ツマ)ニ候、  
 大日本史云、白河天皇御宇応徳三年、鳥羽之山莊百餘丁を以離宮を作り、寛治元年行幸被為在、上七社御

拜被為在、其後当社察來候、

山槐記四承曆元年九月廿日、今日城南神之察也云々、早且可有行幸云々、自今夜宿東殿僧房寅刻御輿迎馬場殿江上皇入御幣渡、次二神馬田樂巫女舞人舞獅々神輿等自東渡、埵内於西二競馬七番云々、

小殿 南殿田中 備殿 車殿 菊水

宝藏 秋山等一 虫損 一 残而田地之字となれり、

日本後紀日弘仁七年七月乙酉、山城国紀伊郡飛鳥田神真幡寸神預官社之列、

旧記曰、四条天皇御宇延暦元年、九条殿下道家公就東福寺御建立、当社之敷地江可為遷座之由、依台命真幡寸神を相殿ニ配セ察り、飛鳥田神を三丁餘斗南之森中ニ察といふ、

先帝石清水社江行幸被為在、当社御望被仰付御初穂御備ニ相成、御拜被為在、還幸之砌も御望被仰付候、慶応元乙巳年七月、依御信仰、御思召を以、吹散毛流、挑灯式張、菊御紋付御寄附ニ相成難有頂戴御座候、昨春御親征行幸被為在候砌も、御望被仰付、無御滞被為濟、還幸之砌も御望被仰付候処、無滞相勤候、

恒例正・五・九月御代參之節二者御撫物御下ケニ相成御被仰付、其餘御祈禱等も被仰付、無滞候、右前条御由緒以是迄之通、御赦免被成下候者、此上相成難有仕合ニ奉存候、以上、

明治二巳年九月

城南離宮神主

鳥羽正五位(印)

京都府 御役所



## 225 「三栖神社」

## 御「虫損」

一今般菊御紋相用候義ニ付御布告之趣奉承知候、然処当村氏神三栖宮神主調子伊勢介ノ伏見御出張所江別紙之通書付差上候趣ニ御座候間、此段御断奉申上候、尤村内寺院菊御紋相用候義一切無御座候、以上、

城州紀伊郡下三栖村

明治二巳年八月十五日

庄屋 善四郎（印）

年寄 次郎兵衛（印）

京都府 郡政 御役所

乍恐奉伺口上書

一三栖宮 所祭

天武天皇

右創建之時代年月、由緒等記録も相伝り不申、耽与相知レ不申候得共、祭礼之儀者従往古、毎年御出九月十二日夜、氏子中神輿渡御、同十六日昼、同様奉神幸罷在候ニ付、来ル九月、例年之通祭礼相勤度奉存候、就而者神輿并神具等菊御紋用米罷在候処、先達而菊御紋相用間敷様御沙汰被為在候得共、何分往古ノ御紋相用來候故如何可仕哉、此段御窺奉申上候、以上、

猶是迄仕来通御紋相用候様被仰付候ハ、至極難有可奉存候、以上、

三栖宮神主

調子伊勢介

伏見 京都御出張所

226 「南小栗栖村八幡宮」

乍恐口上書

菊桐御紋付

一高張挑灯 九張

同断

一丸挑灯 四張

右者何方様之御寄附由緒等難相分候得共、前々之氏神八幡宮社内江納置、例年神事之節二限相用來候義二御座候、

右之通相違無御座候間、是迄通神事之節二限相用候義、御許容被成下候ハ、難有可奉存候、以上、

城州宇治郡南小栗栖村

明治二巳年八月十五日

庄屋 善右衛門 (印)

京都府 郡政 御役所

〔同一願書一通省略〕

## 227 「松尾三宮社」

## 就御取調口上之覚

一 先般菊御紋相用候儀者可為御停止旨被仰出候趣、猶又今般宮門跡方由緒等有之、自然相用候社寺有之向者、其次第御伺可申上旨被仰出候、当村氏神松尾三宮社江村方静謐相治候段、偏氏神之御神力故与被思召候、依之御地頭桂御所々菊御紋附御衣并高挑灯共、安永十丑年三月御寄附被成候二付、両祭神事之節相用來候間、此段御断奉申上候、以上、

葛野郡川勝寺村

松尾三宮社

社家 飯村傳吾(印)

庄屋 儀平(印)

年寄 丑之助(印)

明治貳巳年八月

京都 御政府

## 就御取調口上之覚

一 先般菊御紋相用候儀者可為御停止旨被仰出候趣、猶又今般宮門跡方由緒等有之、自然相用候社寺有之向者、其次第御伺可申上旨被仰出候、当村氏神松尾三宮社江村方静謐二相治候段、偏氏神之御神力故与被思召、依之御地頭桂御所々菊御紋附御衣并高挑灯共、安永十丑年三月御寄附被成候二付、両祭神事之節相用來候間、

此段御断奉申上候、以上、

菊御紋

一 高張灯燈 八張

一 神輿之屋根之衣ニ菊紋壺

葛野郡川勝寺村

松尾三宮社

杜家 飯村傳吾 (印)

庄屋 儀平 (印)

年寄 丑之助 (印)

明治貳巳年八月

京都 御政府

228 「藤森誓願寺」

奉願上口上書

拙寺内安置罷在候処之觀世音宝前江、從古昔小野隨心院御門跡御寄附之品ニ付、今般相改御窺可申旨同御殿  
今被申付候、依之先々之御届書不束之儀も有之候間、御下ケ被下置候様奉願上候、以上、

明治二巳八月十五日

藤森

誓願寺 (印)

伏見 京都府出張所様

229 「物集村 朝廷家来」

「 社寺掛り預り

乍恐御届ケ口上書

乙訓郡

物集女村」

菊御紋〔合印〕御印

一高張 式 百性武左衛門江

一弓張 式 御下ケニ相成候、

一小田原 壺

菊御紋〔合印〕御印

一高張 壺 取立役江

一弓張 壺 御下ケニ相成候

一小田原 壺

乍恐御届ケ口上書

一今般菊御紋宮門跡由緒有之御下ケニ相成候向、社寺村中取調被仰出候ニ付村中取調候処、菊〔合印〕随心院門跡百姓武左衛門、御門主度々御参上被為有候節、非常往道目印為、前々御下ケニ相成候間、此段御

届ケ申上候、菊〔合印〕隨心院門跡取立役江非常往道京都御里坊江驅付御役人出役有之、夜入候節、目印為、  
 前々々御下ケニ相成候間、此段御届ケ奉申上候、  
 右之通相違無御座候、以上、

物集女村

庄屋 武左右衛門

年寄 五左右衛門

同断 弥兵衛

明治貳年  
 巳八月日

京都府 御役所様

230 「山崎觀音寺」

「御由緒書

山崎

觀音寺」

勅願所城州山崎妙音山觀音寺

当山儀、寛平法皇様御開基、中興以空大僧正之時、寛文二年三月、後水尾院様、東福門院様、有叡信、於紫  
 宸殿光明真言演説仕、且当座製作一冊、献両院題額者勅号玉鏡与申、一院宣勅願被仰付、従後水尾様御所持  
 之五鈷、水晶御念珠、御製和歌一紙、正親町院様御一座、御懷紙等拝領之、

- 一 東福門院様御直毫御色絶琥珀念珠、御手自造給橙香匣、弘法大師自筆心経拝領之、
- 一 延寶元年六月下旬、皇后様奉蒙慈命、湯殿日光相州江嶋江御代參、御願就中辨天靈窠一七夜修蜜法究夜八月七日、五更感得舍利、依之帰京後国母奉之後水尾院様、靈元院様、有叡信、仰状数多以高辻殿給之、右舍利南鐙玉塔厨子入而被還下、
- 一 貞享初、依叡慮靈元院様、東宮御所江奉獻歡喜天守護、勅使松木大納言殿登山、仰状高辻大納言殿、
- 一 関東家光公第一女尾州千代姫、本堂再建、家綱公自画之人麿被相納、依之修上、靈元院様右書画江被為朝霧之和歌、貞享三年閏月廿一日拝領之、高辻大納言殿仰状相添、
- 一 依勅願修不空羅索法御願成就、有叡感、以御宸筆賜菩薩号曰以空等引金剛命、高辻大納言殿、豊長卿為添勅書候事、東山院様御尊像外二御尊牌等本堂奉安備致、当時供法修行之事、
- 一 天和二年四月、東照宮并像、千代姫殿当寺江安置候处、元禄十三年、靈舍造立依願從東山院様、東照宮三
- 一 次賜宸翰、高辻中納言殿被添詔書候事、
- 一 惣門、從後水尾院様御建立、妙音山三字勅額、奥院勅額賜、靈元院様宸翰、高辻大納言殿以仰状賜之、貞享三年二月十六日、僧正御推任月次賜御願状、聖天宮供修行宝寿長遠毎月御加持參内仕候事、
- 一 同年霜月、蒙詔天照皇大神宮遷幸記、古今伝授集染毫仕差上、有叡惑、御懷紙某外寄物拝領、
- 一 聖天宮并拜殿、明正院様御建立、外二御宸翰御色紙賜之、
- 一 中御門院様御在胎之時、勅願被仰付候处、如御願變成男子春宮御降誕、翌日從櫛笥大納言殿御撫物為持、月次之聖天宮供同御加持被仰付、御祈禱■累年中御門院様深■木御作法有時、関白鷹司兼熙公御髮配賜、御祝儀被是叡惑有之、同三年、東山院様依詔命、山林境内御朱印地被為成度由被為仰出、両伝奏以書記、

所司江被仰付、參府之砌、其趣達大樹公、同年霜月廿五日、御朱印被下置之旨被仰出、翌年二月參府、四月廿三日頂戴、其御御台所今綱吉公自筆拝受之、其後上中御門院様御宸翰御讚被成下、則大乳母被添詔書、一宝永六年九月廿六日、中御門院様近々御即位二付、為御勸賞大僧正御推任、同十月廿二日參内、於禁庭杖御免被仰付、且御即位御成就宝祚長遠之御祈禱、清涼殿二晝而相勤、退出之時御取持之御末広御浚詰之、兒童以拝領之、

一御代々至今、勅願長日御祈禱被為仰出、例年正・五・九月、七夕、歲暮、諸献上、依之御撫物被下置候、

一隔年、御祈禱所、御尊牌所江翠簾御寄附、御代々御遺物拝領、御即位御遷幸、其外臨時御祈禱拝領物仕候、

一仙洞御所被為有之候節者、院參禁裏御所同様御祈禱被仰出、御撫物御檀料、外二拝領物、御遺物、上御所

御同様被下置候事、

一御室御所院室法淨院永兼(ヲ)滯仕罷在候事、

一官位大僧都、權僧都、僧正、大僧正迄昇進仕候事、

一下乘下馬被立置候事、

山崎妙音山大悲院觀音寺

明治二己巳年九月

役寺

奥松寺(印)

231 「西光寺」

御伺書



洛西大秦郷大石中里村

浄土宗 西光寺儀、宗祖圓光大師遺跡御座候、右二付有栖川宮御寄附菊御紋附

舍利塔 壹台

御幕 壹張

御紋附高張 三対

右御家御印附御品類御寄附御座候二付、文化十四年、圓光大師法要之節より相用來候間、此段奉伺候、以上、

明治二巳年

住持

八月

章蒼(印)

232 「東九条村 六齋講中」

乍恐口上書

菊御紋相用儀者可為停止旨兼而御布令之旨有之候処、宮門跡方由緒有之、自然相用候社寺有之候ハ、来ル  
八月十五日迄其次第委ク相記改而可伺出事、

巳七月

前文之通御沙汰之趣謹奉敬承候、於当村菊御紋相用候儀者、從往古六齋念仏誦講中与相唱、空也堂分融通念  
仏等御授と相成、于今無怠惰執行仕候、仍之同寺分菊御紋附挑灯年々借用仕執行中相用候儀二御座候、  
此段奉伺上候、以上、

山城国紀伊郡東九条村

六齋講中惣代

平吉 (印)

甚兵衛 (印)

庄屋 吉左衛門 (印)

年寄 庄助 (印)

明治二年巳八月

京都 御政府

233 「西方寺」

乍恐御届申上「」

一当寺儀、仁和寺宮御先代後南御室〔割書〕「後陽成院第一皇子寛親法親王御事」依御志願御建立ニ相成候、其已来右御由緒を以、既仁和寺宮御紋菊〔割書〕「合印二引」則寺紋ニ御座候、依之本堂向キ御提灯其外諸道具等ニ相用候間、此段御届ケ奉申上候、以上、

明治二年

無本寺浄土宗

巳八月

葛野郡谷村

西方寺 (印)

234 「浄花院」

御断書

一先達而御触流し被仰渡候菊御紋附挑灯町内取調有之候分、早速取置<sup>(マ)</sup>候間、此段御断奉申上候、以上、

伊藤屋ゆき

同宿

三寶院宮末

修驗 浄花院賢隆

東今小路村

年寄 五兵衛(印)

巳ノ

九月

京都 御政府

235 「葉室山浄住寺」

就御紋由緒御尋付奉申上口上書

御紋附

一对箱 壹對

一箱提灯 同

一高張 同

一弓張提灯 六張

一絵符 壹本

右者

嵯峨天皇御宇、天台慈覚大師ヲ勅請被為遊、則御創建有之、其後元禄年中、中興鉄牛ノ龕宗ニ相成、其以來往古之通、年々正・五・九月御祈祷修行仕、禁裏様、仙洞様、御札献上仕候、右ニ付菊御紋往古ノ相用來候、以上、

明治二年己巳八月

葛野郡下山田村

葉室山浄住寺役者

玉泉（印）

京都 御政府

236 「法傳寺」

「菊御紋拝領物目録」

城州紀伊郡

下鳥羽村

法傳寺

覚

一菊御紋附 戸張

一同 打敷

一同 供物三宝

一同 金欄袈裟

一同 金灯籠

一同 仏前挑灯三張

一同 外ニ玄闕前同式張

一同 幕

右品敷之通、從龜山院様拝領仕罷在候、但シ年曆相古自然破損仕修理致度候節ハ、御届ケ奉申上候間、此儀御聞濟相成候様奉願上候、以上、

城州紀伊郡下鳥羽村

法傳寺

法譽(印)

京都府 御役所

237 「久世村宮座」

乍恐口上書

若子天神

一 菊御紋附棟尾獅々口

是者勸修寺宮様御寄附相成候、

一 菊御紋附挑灯 但し高張四張

三拾四張

此分者神事之節ニ相用申候、非常之節一切相用不申候、

右者寛永十三丙子年、当村女二后昭子内親王様之御領地と相成候節、玉久世之里者神代ら変らざる旧地なれば、名所古跡も可多ル与御聖慮被為遊、則御附武家朝倉越前守正次を以名所古跡を一見して、夫々由緒を可尋来与被仰候二付、里人久保田兵助兼信与申者案内仕、所々古跡由緒を不残尋案仕候得者、朝倉越前守正次ら悉宮様江事之次第言上被致候而、御機嫌不斜御悦被為遊、当社江御宝簾御寄附可被遊旨被仰候得共、少村之義二候得者駕輿丁も無御座候義二付、堅辞退奉申上候処、外二何二而も御願可申上旨再被仰候二付、久保田兼信ら菊御紋附御挑灯を奉願候処、宮安き事与書面之通御紋附御挑灯御拝領被仰付候義ニ御座候、右之通相違無御座候、以上、

城州久世郡久世村

乍宮座

明治二巳年八月十一日

庄屋 甚左衛門 (印)

宮座 清兵衛 (印)

京都 御政府

## 238 「藤森 誓願寺」

諸寺院江寄附之菊御紋御廢止相成候二付、誓願寺ハ別紙書付差遣申候、右者何れへも由緒無之菊御紋寄附相成候筈ハ無之、既伏見中書嶋長建寺弁才天儀者、醍醐三宝院宮由緒有之菊御紋付之品々兼而寄附相成有之候処、去ル六月、神事ニ付伺出候間、及御掛合候処、別紙之通被御申越候、然ル上ハ誓願寺おゐても同様差止メ候方与存候得共、一応御談およひ候、否御報可被下候、以上、

伏水 出張所

八月朔日

京都府 社寺方

随心院門跡家来呼出相尋候処、誓願寺ハ申立候次第不都合ニ付、早々取糺候処、立入改而伏見御出張所御伺書可差遣旨申聞候由申立、別書差遣候間、御廻申入候御許容可相成哉難斗候、右様之取調外へも多分有之候間、弁官江打合候上、追而御達可申候也、

八月十四日

伏見藤森

誓願寺

右当門、徒往古由緒有、同寺觀世音宝前江菊御紋附印附之品、戸張、水引、打敷、釣提灯四張寄附相成、折

願申付置候、於御政府御差支無之候ハ、如旧例其俣寄附仕置度、尤外用ニハ決而相用申間敷段急度申付置候、猶同寺分も伺遣候間此段奉願上候、以上、

隨心院門跡内

山口主殿

八月十三日

京都府 御役所

239 「法音寺」

「由緒伝来御届書

城州葛野郡

大北山村

法音寺」

奉御届申上候由緒伝来書

一 花山院師貞天皇 菩提樹山花山院法音寺香微堂旧地御改二付、御陵御座候事、

一 三條院居貞天皇 橋本山三條院西方寺明月堂旧地御改二付、御陵御座候事、

当法音寺ハ往古天台宗ニ而寛弘年中、花山天皇御陵南弁ニ有之候処、法音寺北之御陵与奉称候、又当地を

小松原と唱へ、昔時ハ極絶景ニ御座候故、花山天皇数度被為在御幸行、当寺ニ御寄附之品々御座候、被仰



置も御座候、御遺志之通奉葬当寺内ニ、則菩提樹六本ハ、其節高野山ノ引移奉御陵地ニ植、当寺ノ昼夜奉御守衛候事、絵図面別紙ニ差上申候通、其比当地者西園寺殿御領山ニ而、下御殿御建ニ相成、正道茂西方ニ相成申候由、同村入口ニ右殿惣門之柱石と申候て、于今有之候、右御領地へ義満、道義公金閣殿を新建有之候、依之後小松院被為在御幸行、一端繁花之地ニ候処、応仁年中戦事為兵火、当山諸堂、什物、由緒書等、不残及焼失、其時之住僧取物も不取散、漸々慈覚大師之作仏一体、恵心僧都之筆掛物壹幅、御紋附之提灯与持去、然る後ニ西方寺地ニ仮建致し、右之品々ハ当寺什宝ニ御座候、其比も何之取立も無之故ニ不能、旧地帰居する事、其俣花山天皇御陵奉御守衛候事ニ御座候、誇■与申候者、爰義満、道義家来村中十八人有之、俗二十八公と申伝へ、于今民家ニ成り、連綿として御座候、由緒慥成ル事ハ此者共ニも伝来ニ茂御座候、別大北山村之初りハ、此者共ニ御座候事、又豊臣太閤之御改革ニ而、御土居被築立候而、従是絶景も野景ニ相成候事、又徳川御改権之時ノ浄土四宗兼学法音寺と申候、昔時ハ末寺五ヶ寺有之候、寺号左ニ

福城寺

本尊其俣町会所ニ相成申候、

地藏寺

本尊ハ行方しれず申候、

施無畏寺

本尊ハ法音寺ニ御座候、

比沙門寺

本尊ハ村方幾三郎方ニ有之候、

永泉寺

中古黄檗派笠取氏庵号ヲ引本尊爰ニ有之候事、

右五ヶ寺、天保年中水野出羽守御改配之時取方付ニ相成申候、法音寺ハ当時も仮建之俣ニ御座候、西方寺住持真盛上人ハ、北野真盛之図子ニ所替、今世上ニ真盛豆卜申候茂此僧之初製也、又法音寺牛末之方ニ当て、

三條天皇奉称御陵と古墳有之、往古ハ西方寺之境内ニ有之、当今ハ民家之裏藪之中ニ御座候、于今藪御塚之近辺ニ種々不思議御座候へ共、誰有て是を申上候ものも無御座候間、此段奉申上候、

一往古寛弘年中ハ明治二巳年迄、凡八百十数年ニ相成候へども、古例ニて当住始、村中一統、毎年正月九日、花山院師貞天皇

三條院居貞天皇 兩御広前ニ

奉備〔割書〕「御鏡餅、御神酒」後刻一統謹而奉頂戴候事ニ候、

右乍恐奉御届申上候事ハ、御皇統御連綿之御筋合御明識之御為ニ聊ニ而茂相成申候ハ、如何斗難有仕合ニ奉存候、依之此段奉御届申上候、由緒伝来書如此御座候、以上、

城州葛野郡

大北山村

明治二年

法音寺(印)

巳九月日

京都 御政府 御役所

240「住吉社」

「明治二巳年九月

御伺書

葛野郡中堂寺村

住吉社  
┌

乍恐御伺奉申上口上書

葛野郡中堂寺村

住吉社

一住吉大明神往古より鎮座在之、神事祭礼之儀者、毎年六月十九日神幸、同月廿八日還幸相勤仕来り候処、本社明神之前に古来より菊御紋附灯燈式張御座候、何れより御寄附之様子か相知レ不申候、祭礼神事用品々ニ菊御紋附御座候ニ付、神事用ニ是迄相用ひ候もの者其俣ニ可相成候様御願奉申上度候、何卒恐多御願ニ御座候得共、以御思召住吉明神江是迄之通菊御紋附御下ケ被成下候様、御願奉申上候、何卒御願之通御聞濟被成下候者、神慮者不及申、広太<sup>(マ)</sup>之御憐悲如何斗難有仕合ニ畏可奉存候、以上、

一御寄附御座候御堂上書

近衛殿

長橋殿

柳原殿

烏丸殿

青蓮院宮

日野殿

梅園殿

冷泉殿

右之通御座候二付、此段御伺奉申上候、以上、

住吉社神主

神元市之進（印）

明治二巳年九月

京都 御政府

241 「和東郷 本地仏」

乍恐御謹書

相樂郡和東郷

郷社内有之候本地仏

右社内二有之候本地仏取払之儀被仰付奉畏候、私共帰村仕来早速取払可仕候、且又神主田村大助江<sup>申</sup>進談之儀者、郷中一同江申談之上、早速可奉申上候、依之請書奉差上候、以上

明治貳巳年

九月十八日

相樂郡和東郷

門前村

庄屋 庄右衛門（印）

園村

京都 御政府

庄屋 善右衛門(印)

242 「革堂 行願寺」

口上覚

当寺儀、従来菊御紋拝領仕来候義者、一條院帝御宇、当寺を為勅願所与為王城鎮護之靈場与賜候、是等之由緒二付被下置候義与相心得申候、尤文化年中之頃迄日光宮御抱所二候間、此辺之由緒も御座候、何卒是迄之通被下置候ハ、難有可奉存候、

但し天明之火災ニ書物記録等焼失仕候二付、慥成由来者不分明ニ御座候、一菊御紋相用有之候品者、幕、挑灯、右類本堂并愛染堂之常灯明、金灯笼之火袋、同堂内諸尊之金灯笼火袋、本堂之水引、打敷、本尊并愛染尊之御凶之扉、戸張、須弥壇之台、三具足台、机、御膳之三方之縁等、宮殿之柱之模様迄数多相用在之候、右之通ニ御座候、以上、

革堂行願寺

明治二巳年

役者

九月十七日

一乘院(印)

京都 御政府

## 口上書

一当寺義、從朝廷(マ)被下物之義、毎年六月朔日、愛染明王前江禁裏御所御代參被為在候節、為御初穗与金三百正宛被下置候、尤其節拙僧御修法御牌并御供物献上仕来候、禁裏御所御厄年二者、每月日限不定、本尊觀世音前江御代參被為在候節も、為御初穗与青銅三十正宛被下置候、其節も拙僧御修法御札献上仕来候、右之通二御座候、以上、

革堂行願寺

明治二巳年

役者

九月十七日

一乘院(印)

京都 御政府

243 「上品蓮台寺」

奉願口上書

一今般御一新二付境内除地御朱印等御取調被仰渡候処、当寺儀者御朱印高反別者無之、境内之分条目御朱印之内二而、除地も無御座候、依之取調方も無御座候二付、外二振合も可有之哉与存知罷在候処、無高御朱印振合も相見江不申、追々延引二相成候段奉恐入候得共、外社寺等御朱印御返上仕、相改御書下ケ被下置候社寺等御座候由承知仕候、然上者当寺御朱印之儀も何卒安心不仕候間、今般御返上仕、新規二御書下ケ

被成下度奉願上候、

一当寺持闈魔堂領西院村之内、高五石六斗八升、千本廻り之内、高式石八升四合義、当六月中御朱印高反別取調奉差上候所、今般御免状御下ケニ相成、其所是迄之通相納候様被仰渡、難有頂戴可仕候、右ニ付闈魔堂領、別紙高御朱印并替地状等返上仕、新規ニ御書下ケ被成下度奉願上候、

右願之通御聞届被成下置候ハ、難有仕合ニ奉存候、以上、

明治二巳年

上品蓮台寺(印)

十二月七日

京都 御政府

244 「神泉苑」

御布令ニ付申上候口上書

大小之社寺祭礼法用等ニ別段被下物有之分并普請修覆等、官府ニ致来之分有之候得者、至急取調候事有之候ニ付、其向之社寺者、仮令聊之品たり共、是迄被下来候訳柄書付ニいたし可申上旨奉拝承候、此儀当苑之義ハ、乾臨閣之御旧跡ニ而御遊之御苑ニ御座候而、往古ハ格別之御取扱も御座候得共、応仁・文明争乱之比より過半廢地ニ相成候処、元和年中、快我上人本願ニ而朝廷へ相願再興候得共、都而元之通ニハ相成不申、敷地も相減し、無録<sup>(マツ)</sup>之事故御由緒之辺を以、本社修覆其外池浚等之節々御寄附相願、御銀被下候、其餘ハ信者助力を以修覆取斗申候、且恒例正・五・九月御祈祷御下行として、年々御米六石宛被下、臨時御祈祷ニハ其節々御

下行被下候、右中古以来之御取扱振御仕来ニ御座候、  
右御布令之御旨ニ任、此段申上候、以上、

神泉苑兼帯

東寺寶菩提院役人

竹内伊賀法眼

明治二年 巳九月十七日

京都府 御役所

「奉願口上書

神泉苑」

奉願口上書

今般菊御紋相用候儀御禁止ニ相成候旨過日御布令有之候、然ル処、当苑儀者申上候迄も無く御遊之旧地ニ而、  
御庭御同様之儀故、古来より菊御紋相用來、右御紋外寺同様御禁止ニ相成候得者、外ニ紋も無之、御庭同様  
之当苑之儀故、何卒是迄通御紋付相用申度、乍去自然是迄通ニ而ハ御不都合ニも候ハ、以来御幕、御挑灯  
共御下ケ被成下、相損し候節々ニハ御取替ニ相成、以前之損し候分ハ返上仕候様御取斗ニ被成下度、一応之  
御由緒柄共違ひ格別之辺被思召、右願両様之内御許容被成下候様、偏ニ奉願候、右宜御沙汰奉願候、以上、

神泉苑兼帯



明治二年 巳九月十七日

東寺寶善提院役者

竹内伊賀法眼(印)

京都府 御役所

245 「六所大明神」

乍恐口上書

氏神

六所大明神

城州宇治郡山科郷

本社御屋根ニ

北花山村

一菊御紋附壺所

菊御紋附

一高張挑灯 弍張

右六所大明神之義、陽成天皇之御宇御勸請被為遊、書面之通御寄附相成、毎年御所様分爲御供料五斗宛御下行米被下置候、尤書面高張挑灯之義者、御神前江相用來候義ニ御座候、右之通相違無御座候付、是迄通御許容被成下候様奉願上候、以上、

右村

明治二己年八月十九日

宮守郷士

松井庄右衛門（印）

庄屋

与惣吉（印）

年寄

富之助（印）

京都府 御政御役所

246 「東千本町 扇鉾」

乍恐御窺奉申上候

一当町之儀者今宮氏子町ニ而、従古来例年神祭之節勸請仕来り候扇鉾義者、前々従御所様度々御鉾御修覆被為、尤尚又吹散等之菊御紋附御寄附有之、其外朱御紋附高張挑灯壺対并ニ箱挑灯とも拝領仕、例年神事之節斗り相用ひ来り候、然ニ今般御紋附御差止メニ相成、乍去別段由緒有之向者由緒書を以奉伺旨被仰出候ニ付、則別紙由緒書相添、此段奉御伺候、何卒御取調之上、是迄通り仰付被為下候ハ、町中一統難有仕合ニ奉存候、尤御所様よりも別段被仰立可被下等ニ御座候、

上京式番組

大宮通り寺之内上り西江入東千本町

明治二巳年七月

年寄 茂助(印)

五人頭 金右衛門(印)

町中惣代 伊助(印)

京都 御政府

扇鉾由緒書

扇御鉾由緒書

中御門様御宇、

正徳年中、御鉾御修覆并二吹散等御寄附被為在候得共、其節之書物等享保十五亥年西陣火難類焼之砌焼失仕候二付、年月耽与相分り不申候、

其後、

籌宮様ヨリ

宝曆二申年、御吹散御寄附被為有候、

其後、

開明門院様ヨリ

明和八卯年、御吹散御寄附被為有候、

其後、

禁裏御所様ヨリ

文化三酉年五月、御吹散拝領仕候、則萌黄地演唐緞子菊御紋附白金糸赤ト三ヶ所、其節之御掛り山岡内記様、高嶋監物様、

其後、

禁裏御所様ヨリ

御銚御修覆被為成下候、則文化七年歳四月、其節山岡内記様御取次ヲ以被為仰出候者、扇銚之義者第一番御銚故、上様ニ茂今宮同様ニ被為思召、殊更御厄前ニ被為在候間、格別御信仰被為有候間、大切ニ勸請可仕旨、天覽之節町役之もの共へ被仰渡候事、

其後、

禁裏御所様ヨリ

文政五午歳五月、御吹散壺掛ケ御寄附被為有、則萌黄演唐緞子菊御紋附白金糸赤ト三ヶ所、猶亦御清祓料御金貳百疋、御局会所大典侍様御内、西川右内様御取次ニ而被下置候事、

菊御紋附 箱挑灯 貳張

文政七申年五月、西川右内様御取次ヲ以拝領仕候、

其後、

禁裏御所様ヨリ

文政九戌年四月、御銚御修覆被為成下候、上様御叡覽被為有、則御清祓料御金貳百疋、西川右内様御取次ニ而被下置、猶又其節菊御紋附朱高張挑灯

式張拝領仕候、

其後、

禁裏御所様ヨリ

弘化四未年四月、御銚御修復被為成下候節、御銚金物等之義、菊御紋ヲ用候様被仰渡、御修復成就之上、

上様御叡覽被為有候上、則御清祓料御金貳百疋、山岡主計様御取次ヲ以被下置候事、

右之通ニ御座候、以上、

上京式番組

東千本町

明治二巳年九月

年寄 茂助(印)

町中

247 「長福寺」

「菊御紋附之儀訳書

山城国葛野郡梅津村

長福寺」

当寺儀者、花園帝勅願所、開山大幢国師江依御帰依ニ、元亨二年御受業之賜御宸翰、貞和二年十二月廿三日、  
当寺江臨幸、一夜御逗留、翌廿四日還幸、同廿五日御感悦之賜御宸翰、觀応元年六月廿一日、勅願所之賜院宣、  
其外追々御宸翰等賜リ只今ニ数通護持仕候、猶又於当寺ニ永世被蒙御追福之勅命、御自贊之御影御手下ラ下シ

賜候二付、至今御影并御尊牌奉御安置、依之菊御紋附之儀、御尊牌前御供具之品御紋附往古今相用來候儀二御座候、

菊御紋附

一 高張提灯 四張

右者御影并御尊牌守護、且出火見舞非常之外相用不申候、

菊御紋附

一 弓張提灯 八張

右者御影并御尊牌守護、出火見舞非常之外相用不申候、

右提灯二相押合印左之通、

〔合印〕

右御由緒柄二而菊御紋附之品相用來候、尤宮門跡方之由緒も無御座候、御布令之御趣意奉拝承候得共、御尊牌前用并非常用二御座候間相附申度奉存候、此段奉御伺申立、宜御沙汰可被成下候、以上、

明治二年巳

九月

長福寺役者

藏龍院（印）

御政府 御掛中

## 248 「六孫王神社」

## 奉伺口上覚

当社おゐて菊御紋相用之儀者、享保五年、從中御門院天皇様御紋附御挑灯、御翠簾等御寄附御座候、  
 享保廿年、從桜町院天皇様御紋附御幕并隔年二御挑灯、御翠簾等御寄附御座候、  
 天保五午年、從仁孝天皇様御紋附御幕并隔年二御挑灯、御翠簾等御寄附御座候、  
 安政四巳年、慶応二寅年、從孝明天皇様御紋附御幕、両度御寄附、御翠簾、御挑灯、隔年二御寄附御座候、  
 当帝様よりも御翠簾、御挑灯御寄附御座候、  
 右、從御代々様御寄附之御品々、神祭并御祈祷之節二相用來申候、尤年中御祈祷被為仰付候二付、御撫物御  
 下ヶ御座候二付、右引替之節二相用候、御紋附長櫃等相用來り申候、尤社向非常等之外相用不申候、桂准后  
 宮様永年御祈祷被為仰付御座候二付、慶応二年十二月、菊御紋附御幕并御翠簾御寄附被為在候、右御品々、  
 神祭并御祈祷之節二相用申候、菊御紋附御幕、御挑灯等社用非常之外、自用二相用候儀一切仕不申候、此段  
 宜御沙汰之程、奉願上候、以上、

## 六孫王神社

## 社務 西八條弘量(印)

巳九月

京都 御政府

## 249 「南禅寺」

## 奉伺口上覚

当社儀者亀山帝御開基ニ而、勅願所之訳を以山陵御用之儀者勿論、其餘共從古來菊御紋ニ当山之印を付相用  
來候分員數左之通ニ御座候、

## 覚

亀山帝御尊前

一御靈供膳碗并皆具 一組

同

一御菓子台御茶湯器共 壺対ツ、

同

一御戸張 壺掛

同

一御打敷 大小五片

右

一紫幕 十張

一布幕 二十張

一先箱 二ヶ

一後箱 二ヶ



一 高張提灯 二十四

一 箱提灯 十

一 弓張提灯 三十

右

〔合印〕 当山印如上二御座候、

右之品々は迄相用來候、其餘塔頭等二者相用不申候、従前之通相用候間宜敷御座候哉、此段奉伺候、以上、

巳九月

南禅寺役者

聽松院

京都 御政府

奉伺口上覚

一 当寺儀者龜山法皇正応四年辛卯、法皇賜離宮為禪刹、法皇御寢廟在南禅院并御自作之御尊像安置、同院、  
一 後小松帝詔賜天下第一五山之上之官寺、応仁兵乱焼伽藍焼失之後、改而後陽成帝勅賜清凉殿并灰筋堀、当时為方丈、

一 寛永十八年、後光明帝賜日御門并灰筋堀、当时者勅使門卜称候事、

一 龜山法皇御山陵、嘉永年中御造宮被為「虫損」後勅使御參行被為在候事、

一 龜山法皇当寺御建立御宸翰之御祈願文、今二秘在仕候事、

一 後伏見帝、狩獵御制禁之院宣被為成下候事、

一 後二條帝、寺領御寄附之院宣被為成下候事、

一 後醍醐帝太政官符宣被為成下候事、

右之外、数帝御宸翰今二秘在候事、右御由緒等之訳柄を以、從往古右下馬札御建置被為成下候處、今般御布

令被仰出一 虫損 一 此段奉伺候、以上、

巳九月

南禪寺役者

聽松院（印）

京都 御政府

250 「地藏堂」

口上覚

城州宇治郡山科郷四宮村

京東山南禪寺末

禪宗 持主 徳林菴

地藏堂

右地藏菩薩之儀者城州六地藏之内一躰ニシテ、毎年七月廿三日法会執行仕候ニ付、其節從禁裏御所菊御紋附紅白之釣提灯式ケ、大蠟燭五挺、初穂トシテ金壹朱御備被為在候、則当年も例歳之通御備被為成下候、右今般御寄附物之儀御布令被為在候ニ付、此段御届奉申上候、以上、  
 巳九月十五日

徳林菴

住持 祖観(印)

京都 御政府

251 「小倉大明神」

「乍恐口上書

城州乙訓郡

小倉大明神神主

小和泉土佐

〔表紙貼紙〕

「 城州乙訓郡小倉社

神主

小和泉土佐

一山城国乙訓郡小倉大明神者、養老年中被祭始云々、延喜帝日本国中小大之神社、自昔毎年官幣等案上案下有、

其差別而為定例所被祭之社、天皇御崇敬之御神社悉被定、其式小倉神者其中社之隨一也、依茲神位進正一位之御神德也云々、御垂跡之由来、社領之証文、旧記等、四代以前之神々迄雖伝来、其嫡子故神主土佐藤原宗房若年之時不殘令燒亡之由、誠以不及是非儀承候、信長公於京都御生害之後、秀吉公与明智日向守山崎合戰之砌、此辺土之民屋社寺大小不知其數被燒払時、当神殿者為炎上故、社頭之中所籠納候神記、社家之古証文等者遁去之刻不取持、只御神体斗奉把遁隱之故二、今往古之御神像不改御座候由、祖父申伝二候、神領六百石余、自昔社納之年貢米、当氏子之在郷八ヶ村之内二在之、雖然古来之手続証文燒失申候之故、天正御檢地之節不能指出候之所、神領悉落申候、雖奉歎之不及是悲二次第二御座候、雖然只今所殘之除地六百間余四方有之申候、

但菊桐御紋、從延喜御幕御拝領仕候二付、祭礼者勿論社用等二茂相用來申候、  
右之趣、延宝八庚申年三月十二日、小倉大明神神主小和泉刑部、御奉行所江差上申候、則蒙御免相用來申候、  
以上、

城州乙訓郡

明治二巳年九月

小倉大明神神主

小和泉土佐（印）

京都府 御役所

252 「鞍馬寺」

「菊御紋由緒書

城州愛宕郡

鞍馬寺」

一当山儀者徒往古勅願所ニ而菊御紋相用來候処、猶亦寿永式年七月、後白河法皇行幸被為在候節、御紋拝領仕、當時迄御撫物御預り申上候義ニ付、菊御紋相用罷在候儀ニ御座候、右之通之由緒ニ御座候、以上、

鞍馬寺

明治式巳年九月

別当代 欽喜院(印)

京都 御政府

253 「大原寺」

「覚

魚山

大原寺

理覺院」

覚

一御紋附拝領、往古之儀者相分不申候得共、法要等ニ付入用御座候節者從梶井宮、灯燈、幕等御廻ニ相成候品々  
 用來、拝領之廉相分不申候、以上、

魚山

巳九月

大原寺 理覚院

京都府 御役所

254 「東寺」

「奉願口上書

東寺」

奉願口上書

今般菊御紋相用候儀御禁止ニ而、寺院ニ而者泉湧寺、般舟院等之外不相成、且下馬札之儀も御禁止之趣御布  
 令有之奉拝承候、当寺之儀ハ今更申上候迄も無之、延暦年中遷都之始、近クハ王城、遠クハ海内衛護として、  
 桓武天皇様御創建被為在、弘仁十四年、嵯峨天皇様より弘法大師江永ク預ケ賜、鎮護国家之御祈道場ニ被定  
 候官寺ニ而、私之寺ニハ無之、尤餘寺ニ不准、我国彼寺を以為最頂との官寺も有之、全朝廷之御寺ニ而、泉  
 湧寺ハ御菩提所、東寺ハ御祈願所ニ而、殊ニ泉湧寺ハ漸四條天皇様以來之御菩提所、東寺ハ千有餘年歴然連  
 綿之御祈願所と申、其上大内裏中一之官寺故、古来より菊御紋相用候儀ニ而、外ニ紋と申ものハ無之、且又  
 下馬札之儀も前同様之訳柄を以古来より有之候処、爾後御禁止ニ相成候而者碌々タル町寺も同様ニ相成、桓

武天皇様以来御代々之聖主叡慮之辺も恐入歎ケ敷奉存候、泉湧寺、般舟院ハ御許ニも相成事ニ御座候得者、何卒御一新御改正ニ而、更ニ右ニ品拝領被仰付候様奉願候、自然御六ケ敷御儀ニ御座候得者、桓武天皇様以来御取扱之辺以度相立、餘寺ニ不被准候と申辺ノ御差別被為下様、偏奉懇願候、右宜御沙汰奉願候、以上、

明治二年

巳九月八日

東寺雜掌

岡本今法眼(印)

京都府 御役所

255 「光雲寺」

奉窺候覚

山城国葛野郡

光雲寺

一当寺儀者寛文四年申辰、後水尾院様、皇太后東福門院様御建立被為在、同七年丁未六月、明正院様大鐘并楼共御寄附被為在候、其後延宝三年乙卯閏四月廿六日、後水尾院様第三皇女昭子内親王被為遊薨、御奉称妙莊嚴院様与候、同年五月三日、於当寺御葬送被為在、御靈屋御造立被為在候、其後菊御紋附相用來候儀ニ御座候、今般菊御紋之儀ニ付御布令被為「虫損」ニ付、此段奉窺上候、以上、

明治二巳年九月

光雲寺役者

天眠庵

京都 御政府

菊御紋付之品書

妙莊嚴院様御靈供

一 御膳具御茶湯器御菓子器皆具 貳組

一 唐金御灯籠 貳対

一 水引戸張 五掛ケ

一 御打敷 三片

一 紫幕 貳張

一 麻幕 壹張

一 挟箱 壹対

一 長持 貳棹

一 高張提灯 拾貳張

一 箱提灯 四張

一 丸提灯但弓張 拾張



一 馬提灯但弓張

拾張

右之通ニ御座候、

256 「南禅寺」

奉伺口上覚

当寺儀者亀山帝御開基ニ而、勅願所之詛を以山陵御用之儀者勿論、其餘共従古来菊御紋ニ当山之印を付相用  
来候分、員数左之通ニ御座候、

覚

亀山帝御尊前

一 御靈供膳椀并皆具 一組

同

一 御菓子台御茶湯器 壺対ツ、

同

一 御戸張 壺掛

同

一 御打敷 大小御片

右

一 紫幕 十張

一布幕 二十張

一先箱 二ヶ

一後箱 二ヶ

一高張提灯 二十四

一箱提灯 十

一弓張提灯 三十

右

〔合印〕 当山印如上二御座候、

右之品々は迄相用來候、其餘塔頭等二者相用不申候、從前之通相用候間宜敷御座候哉、此段奉伺候、以上、  
巳九月

南禪寺役者

聽松院（印）

京都 御政府

〔裏表紙〕

「 社寺掛 」